

2023

令和5年度「学部教育充実予算」

# 体育・スポーツの エキスパート育成プログラム 事業報告書

- アスリート・コーチ
- アスリートサポート
- 保健体育教員
- 健康運動指導者
- 生涯スポーツ教育者
- キャリア教育

福岡大学スポーツ科学部

令和5年度「学部教育充実予算」

# 体育・スポーツのエキスパート育成プログラム

事業報告書

## 目次

挨拶	01
プログラムについて	02
アスリート・コーチ育成プログラム	04
アスリートサポートプログラム	08
保健体育教員採用試験対策プログラム	10
健康運動指導者試験対策プログラム	12
生涯スポーツ教育実践プログラム	13
キャリア教育実践プログラム	14
令和5年度 成果一覧	18

# 挨拶

## スポーツ科学部長 檜垣 靖樹

2011年度からスタートした、全学的な取り組みである「魅力ある学士課程教育支援プログラム」は、本学部において新カリキュラム（2010年入学生より施行）に沿った内容として展開してきました。その後、2013年度からは「教育推進経費」、2016年度からは「暫定的教育予算」、2017年度からは「学部教育充実費」として予算計上し、「アスリート・コーチ育成プログラム」、「アスリートサポートプログラム」、「保健体育教員採用試験対策プログラム」、「健康運動指導士試験対策プログラム」、「生涯スポーツ教育実践プログラム」、「キャリア教育プログラム」の6つのプログラムを実施してきました。各プログラムは、スポーツ科学部生の出口を見据えた具体的な取り組み内容であり、スポーツ科学部の教育実践として社会に貢献する人材養成を具現化するものです。

2023年度は、健康運動実践指導者10名と健康運動指導士2名の合格、保健体育教員の現役合格者7名（小学校1名、中学校4名、高等学校2名）、JATI2名の合格、UNIVAS AWARDS2023-2024において、本学部生がWoman of the Year/ウーマン・オブ・ザ・イヤーに入賞するなど、取り組みの成果が現れています。また、課外活動で優秀な成績を収め、スポーツ賞を受賞した団体および個人は6団体27名となりました。

2024年度は、福岡大学創立90周年の節目の年であり、本学部においては1972年以来の開催となる第74回日本体育・スポーツ・健康学会をここ七隈の地で予定しています。これまでの事業成果が様々な局面で活かされることを期待しています。

最後に、本プログラムを実施するにあたり、大学のご理解とご支援、ならびに学部教育に携わっていただいた関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

# プログラムについて

## コーディネーター 今村 律子

スポーツ科学部では、平成 22 年度入学生からカリキュラムの改編に伴い、福岡大学の「魅力ある学士課程教育支援プログラム（体育・スポーツのエキスパート育成プログラム）」とタイアップしてさまざまなプログラムを実行してきました。その後、カリキュラムの完成年度（平成 25 年度）にその効果を検証した結果、大きな効果が認められました。平成 25 年度以降は、「教育推進経費」により本プログラムを継続し、平成 28 年度からは、減額されたものの「暫定的教育予算」によって継続してきました。そして、平成 30 年度からは「学部教育充実予算」として同様のプログラムを実施しました。このプログラムは、現カリキュラムの特徴である推奨コースと連携をとるプログラムが多く、教育的な効果も高くなっており、スポーツ科学部の魅力をつくり出す重要なプログラムとなっています。

現カリキュラムは、1 年次生の学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向づけをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」は、本学部の現カリキュラムと非常にマッチしたものであり、これまで多くの成果を得ることができました。平成 30 年度においても「学部教育充実予算」で申請し、これまでと同様のプログラムを実施してまいりました。それぞれのプログラムでは、コースの特性を生かし、期待以上の成果が上がってきました。

本年度は、コロナウイルス感染症が 2 類から 5 類へと移行し生活様式も落ち着きつつも、学習形態のバリエーションは多様化し続けると思われ、当学部のオリジナルプログラムの新しい形としても進化しなければならないと考えております。地域社会との連携も重要な大学の役割となっている昨今、生涯スポーツ教育実践プログラムは来年に期待し、各プログラムを通して、学生たちが力を発揮し、地域、そしてグローバルといった様々なステージで目標に歩んで行けることを願っています。

## プログラムスタッフ

◇統括 檜垣靖樹

◇アスリート・コーチ育成プログラム

乾 眞寛 米沢利広 片峯 隆 村上 純

田口晴康 柿本真弓 坂本道人

田場昭一郎 長島和幸

◇保健体育教員採用試験対策プログラム

柿山哲治 梅田保人 今村律子

◇生涯スポーツ教育実践プログラム

霜島広樹 藤井雅人 築山泰典

◇コーディネーター 今村律子

◇アスリートサポートプログラム

下園博信 布目寛幸 川中健太郎

森口哲史 吉田一也

◇健康運動指導者試験対策プログラム

道下竜馬 山口幸生 川中健太郎

◇キャリア教育プログラム

野口安忠 川上翔太郎 吉田一也

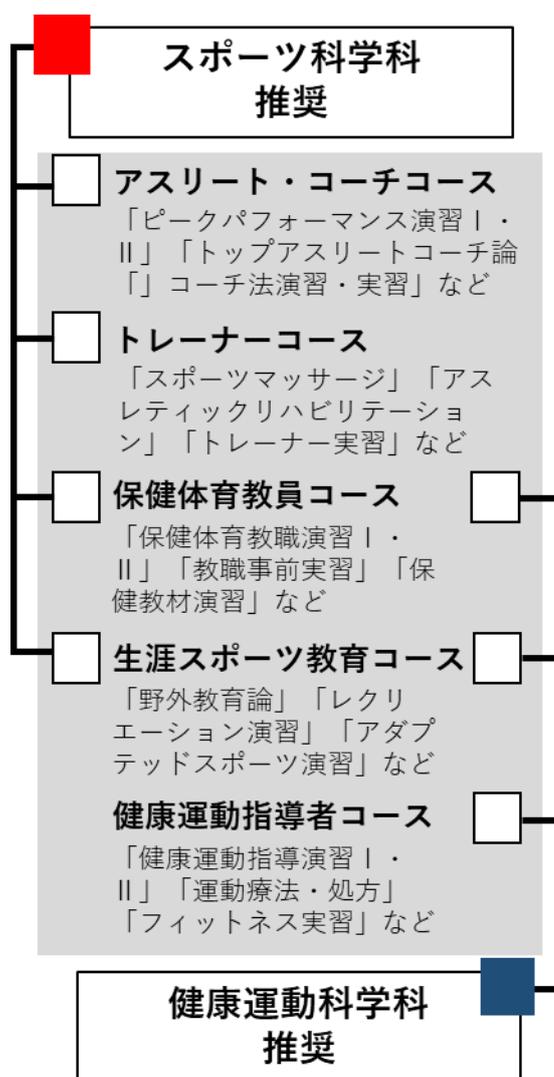
◇会計 大野朝美

## プログラム概要

### 目標と特徴

スポーツ科学部では、平成 22 年度からスタートした現カリキュラムに向けて様々なプログラムを準備して実践してきた。新カリキュラムは、学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向付けをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものである。アスリート・コーチコースでは、平成 20 年度から 3 年間継続した「トップアスリート強化・支援のための実践プログラム」を一部継続しながら、全国大会上位入賞者および団体（チーム）のさらなる増加を、保健体育教員コースでは、3 年次からの人数制限科目の設定等により、教員採用試験の現役合格者あるいは卒後早期合格者の増加を、健康運動指導者コースでも 3 年次からの専門家養成教育に重点を置くことにより、健康運動実践指導者および健康運動指導士の合格者の増加を、そしてトレーナーコースと生涯スポーツ教育コースでは、アスティックトレーナーやトレーニング指導者、野外教育・レクリエーション指導者などのエキスパート育成を目指している。

アスリート・コーチコースの学生には、国内外で活躍する指導者や選手を招聘し、継続的な動機づけと明確な目標設定を行わせ、より高度な競技レベルへのチャレンジ精神と自発的に学ぶ姿勢を身につけさせる。さらに、国内外での研修を奨励し、国際的視野で活躍する人材を育成する。また、アスリートサポートプログラムでは、栄養サポート、メンタルサポート、フィジカル&バイオメカニクスサポートなどにより、サポートのエキスパート育成が期待できる。保健体育教員コースの学生には、教員採用試験突破に向けた講習会と勉強会を、健康運動指導者コースの学生には、健康運動実践指導者および健康運動指導士の試験合格に向けた講習会と勉強会を設定することで、意欲ある学生への支援が可能となる。トレーナーコースや生涯スポーツ教育コースの学生には、実践教育の場を供給できる点で効果が期待できる。また、2 年次生の開講科目「ステップアップセミナー」では、職業意識を高めるために、様々な職種の講師を招聘している。



# アスリート・コーチ育成プログラム

担当責任者 乾 眞寛

2011年度から始まった「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」は、12年目を終えた。2008年度に開始した「トップアスリート強化支援のための実践教育プログラム」の3年間を合わせると、計15年間継続されてきたことになる。

福岡大学内のスポーツ強化策が2005年度からスタートしたことと合わせて、全国大会及び国際大会での“福大アスリート”の活躍は飛躍的に実績を挙げており。2023年度も全国大会3位以内に入賞した種目は、ソフトテニス・なぎなた・ソフトボール(男子)・陸上競技(女子)・リレー4×100m・サッカー(男子)・バレーボール(女子)と6種目が上位入賞を果たしている。

当プログラムは、競技面での実績を高めることを目標に掲げ、世界的スケールで活躍してきた実績を持つ一流アスリートやコーチを本学にお招きし、その貴重な体験談を聞ける場を授業時間内で定期的に提供することを目指した。

2年次の前期に開講された「ピークパフォーマンス演習Ⅰ」では、授業内に合計4回外部講師をお招きし、トップアスリートから直接に経験談や苦労話、失敗談、ケガとの向き合い方等を聞ける機会を提供している。

外部講師の派遣については、株式会社ミズノ九州支社のご協力を得て、国内の超一流アスリートをお迎えしており、学生たちからも高い評価と反応があり、出席状況も良好であり、学生たちのモチベーションを高めることにも大きく貢献できていると確信している。

2020年のコロナ禍以来「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」による海外研修や国内スポーツ研修制度の参加者は、まだ復活・再開できていないが、今後福大アスリートの目標設定や自己実現に対して大きな成果を挙げていくため、「ピークパフォーマンス演習Ⅰ・Ⅱ」を通じて大いに経験値を高めて欲しいと考えている。

この事業の実施に際しまして、ご尽力頂きました皆様方に、プログラム責任者としてお礼を申し上げます。有難うございました。

## 特別講演会 ゲスト講師

### 星 奈津美 氏 競泳選手

1990年8月21日 埼玉県越谷市生まれ

春日部競泳高校→早稲田大学卒

ロンドンオリンピック、リオデジャネイロオリンピック銅メダリスト

オリンピック3大会連続出場、2大会連続銅メダル獲得



2008年 北京オリンピック 10位

2011年 世界水泳選手権 4位

2012年 ロンドンオリンピック 銅メダル

2015年 世界水泳選手権 金メダル

2016年 リオデジャネイロオリンピック 銅メダル

(2023年6月7日開催)

### 官野 一彦 氏 ウィルチェアラグビー、パラサイクリング

1981年8月1日 千葉県袖ヶ浦市生まれ

木更津総合高校卒、リオデジャネイロパラリンピック銅メダリスト

現在はパラサイクリングで世界も目指す傍ら、実業家として活躍中



2012年 ロンドンパラリンピック 4位

2014年 世界選手権 4位

2015年 アジアオセアニアゾーン選手権 優勝 Best Player 賞受賞

2016年 リオデジャネイロパラリンピック 銅メダル

2017年 アジアオセアニアゾーン選手権 2位

2018年 ジャパンパラウィルチェアラグビー競技大会 優勝

世界選手権 金メダル

(2023年6月14日開催)



## 青野 文彦 氏 バスケットボール選手

1978年10月20日 愛媛県生まれ

松山城南高等学校→青山学院大学卒 元バスケットボール日本代表

JBL のオールスターに5年連続で選出

優秀選手、シーズンベスト5に数多く選出されるなど日本のトップ選手として活躍し、

日本代表としてはアジア選手権など17年間、国際大会で活躍



2001年 アジア選手権 日本代表選出

2003年 アジア選手権 (アテネオリンピック予選) 日本代表選出

2006年 アジア競技大会 日本代表選出

2007年 アジア選手権 日本代表選出

2013年 アジア選手権大会 日本代表選出

(2023年6月21日開催)

## 銘苅 淳 氏 ハンドボール選手

1985年4月3日 沖縄県浦添市生まれ

那覇西高校→筑波大学卒

アジア選手権3位、元ハンドボール日本代表

2004年 日本代表 U-21 選出

2008年 日本代表 U-24 選出

2009年 日本ハンドボールリーグ 殊勲選手賞

2012年 ハンガリーリーグへ移籍

2016年 スペインリーグへ移籍

2016年 アジア選手権 3位



(2023年6月28日開催)



## 受講生レポート

### （星 奈津美さんの講話より）

「星さんの話を聞いて、星さんくらいすごい選手でもモチベーションの低下はあるし、大事な大会前になん底になったりするんだと知ることができて、自分ももっと頑張れると思えた。」

「悩んだときに自分 1 人で抱え込むのではなく、信頼できるコーチや友人に相談することで解決するかもしれない大事さを知ることができた。人に弱さを見せることも大切だと感じました。」

「自分を冷静に分析して具体的な目標設定をすることが大切であるということについて、星さんと平井コーチのやりとりのように、選手とコーチの信頼関係がある上で目標を決める大切さを感じました。」

### （官野 一彦さんの講話より）

「苦しくても辛くても逃げる人間になりたくないからと人生一番きつい練習をして自分を追い込んだという話を聞いて、本当に素晴らしいと思ったし、自分は身体に不自由なくできていることに感謝して、もっと頑張ろうと思った。」

「逆算の法則とあったように、足りないものは何か、自分の武器は何かなど分析して来週、1ヶ月、半年後の目標を決めてコツコツと着実に夢に向かって進んでいきたいと思いました。」

「官野さんの講義を聞いて諦めない心の強さを知ることができた。辛いことでもすぐに気持ちを切り替え、今自分が何をできるのかを考えて行動する力が強くてとてもすごいと感じた。」

### （青野 文彦さんの講話より）

「青野さんの話を聞いて、自分を信じることの重要性を知ることができた。自分を信じて挑戦していくことが成長の一步であると思いました。」

「ある程度の成績を出すためには、自分のために競技をやるので十分ですが、さらに成績を出すためには自分のためはもちろん周りの人達のために頑張ることが必要になってくるのが分かりました。」

### （銘苺 淳さんの講話より）

「ダイヤモンドはダイヤモンドでしか磨けないという言葉が印象に残った。自分と同じ情熱を持った人が自分を磨いてくれるし、自分が他者を磨くという考え方を知ることができた。」

「自らの体験や成功、失敗、思考、感情を自分の口から自分の言葉で自分の考えを発信する、伝えることが大事で自分の物語を創れるように大学生活を送っていきたくと思いました。」

# アスリートサポートプログラム

担当者 吉田 一也

本学部では、主にスポーツトレーナーコースを選択している学生を対象とした「スポーツトレーナー実習」という科目を開講している。毎年15人前後の学生がスポーツトレーナー実習を履修し、実技形式の授業を通して、より実践的な知識や技能を学んでいる。しかし、トレーナーを志す学生にとって、実際のトレーナー現場や活動環境との接点が乏しく、働き方などを知る機会が不足していると感じる。そこで、学生の意欲向上ならびに本物を知る機会の提供を目的に、スポーツ現場で実際にトレーナーとして活躍されている方の生の声を聞く機会を設けている。また、本年度は講師の方を本学にお招きし、対面形式で講義や指導をしていただく機会を設けた。トレーナーとしての働き方や学びだけではなく、実際に運動を行っている中で、指導をしていただける貴重な機会となった。学生達は、講師の方との会話を通し、多様なトレーナーとしての働き方やスポーツ現場で求められることをより知ることができたのではないだろうか。本授業で得た学びが、今後トレーナーを目指していくうえでの指針となることを期待したい。また、トレーナー以外を目指す学生でも、アスリートのサポートをする上で重要なことを理解できた時間であったと感じる。

## <セミナー>

日時：2023年12月25日（月）

講師：北海道日本ハムファイターズ 2軍 ストレngth&コンディショニングコーチ

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、JATI-ATI、鍼灸師

今野 壮大 氏（下段真ん中）



## 受講生レポート

### <スポーツ科学部 3年 村岡 芽依>

現場で働く方の声を聞いたので、トレーナーのどこを見るのか要点を押さえ、選手との信頼関係を築くためにも自分がかかり学ばないといけないと思った。私はどちらかと言えばフィットネス系に進みたいと思っているので、対象が一般向けにはなるが、それも同様に効果的なトレーニングを提供できるようにしたい。なので、JATI-ATI の勉強を頑張ります。

### <スポーツ科学部 3年 岩崎 俊作>

トレーナーの実際というところで、選手を支えるにも様々な要素があり、人材もいる分、S&C といった専門性は高くなるだろうと思った。正しく評価する上でも解剖や運動学といったことは大学のうちにきちんと学んでおきたい。

### <スポーツ科学部 3年 藤江 愛奈>

実際にトレーナーさんの話を聞いて具体的なことを知ることが出来ました。実技をして指導している場面を見てやっぱり色んな筋肉の使い方とか動きを細かく見られていて凄いと思いました。トレーナーの内容もとても濃くてやりがいのありそうな仕事だと改めて思いました。



# 保健体育教員採用試験対策プログラム

担当責任者 今村 律子

2023年度の教員採用試験1次合格者は、小学校1名、中学校8名、高等学校7名の16名であった。また、2023年7月30日～9月7日に渡って梅田教授、今村准教授で、2次試験対策（含実技）を行い、2次試験合格者は福岡市小学校1名、北九州市中学校1名、福岡市中学校1名、福岡県中学校2名・高等学校1名、広島県高等学校1名の計7名であった。なお、7名全員が保健体育教員コースであった。今年度はコロナ後の傾向として、教職・教養の試験内容の統一化傾向や、実技試験内容の種目数の定着など変化が見られた。福岡市と福岡県において大学推薦制度が導入され、今後も推薦形式の増加が予測される。実技指導においては、学部教員がサポートして下さっている。

## <プログラム内容>

### 令和6年度教員採用試験（令和5年7月～実施）対策の実施

- ① 一次試験対策（筆記・実技・面接等の指導も含む）  
5月・2024年2月・3月 模擬試験の実施
- ② 二次試験対策（一次試験合格予定者を対象）7月末～8月末実施

### 現役教員の講話・専門家実技指導

- ・現役教員（当学部卒業生を含む）より、採用までの対策および教師生活等の講話

4月17日（月）5限	川波由臣先生（福岡県教育庁教育振興部社会教育課 社会教育主事）
4月24日（月）5限	末崎智宏先生（福岡県教育庁教育振興部義務教育課 指導主事）
6月27日（火）1限	秋田瑞弘先生（福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課 指導主事）
7月4日（火）1限	山本秀史先生（福岡県立講倫館高等学校 校長）
7月4日（火）3限	中田雅子先生（福岡県立筑紫丘高等学校 養護教諭）
12月4日（月）5限	瀬尾博栄先生（福岡県立筑紫高等学校 校長）

\*月曜5限は、教育実習事前事後指導で開催

- ・採用試験実技対策・実践指導力向上のための指導（今村准教授・川崎助教）

6月27日（火）3.4限	心肺蘇生法講習（普通救命講習1修了証交付）
7月末～8月中旬	器械運動、バスケットボール、水泳、バレーボール

### 教員採用受験情報集約と報告資料の作成

- ・受験者（4年生）から受験情報を集約し、合格者の報告会を教職関連授業にて実施
- ・今後の参考資料として、報告媒体及び、模擬授業・実技試験の動画を作成

### <2023年度 公立学校教員試験合格者>

酒井綾（福岡市小学校）

音羽悠基（北九州市中学校）、田中奈津美、古賀遥香、能見若奈（福岡県中学校）

糀屋斎（福岡県高等学校）、島川智哉（広島県高等学校）

## 合格者レポート

<スポーツ科学科4年 萩屋 斎 (福岡県高等学校)>

私は大学3年生の秋頃から、毎日2~3時間勉強を行い、その小さな積み重ね、凡事徹底が採用試験合格につながったと思っています。ただやみくもに勉強をするのではなく、一つ一つに意味を持たせ自分の意識から変えていくこともモチベーションを保つ上でとても重要だと感じました。また、書いて覚えるのか、読んで覚えるのかなど自分に合った勉強スタイルを確立していくこと、一方で勉強をする場所や時間など自分の能力をしっかりと生かせる「環境づくり」をしていくことも合格への第一歩になるのではないかと思います。ただ、振り返ってみるともっと早めに勉強や過去問分析を行っていたら、さらなる余裕と自信をもち試験に挑むことができたと思っています。



夢を実現させることは簡単ではありません。実現のための困難に直面し、努力し研鑽を積み行動することができる人こそが夢の実現の扉を開くことができると思います。その第一歩を踏み出し、スポーツ科学部の後輩のみなさんの物語がより彩られるように応援しています。



# 健康運動指導者試験対策プログラム

担当責任者 道下 竜馬

## <プログラム概要及び成果>

本プログラムは、公益財団法人健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士および健康運動実践指導者の資格取得を目指す学生を対象に、下記日程で実技試験および筆記試験対策を健康運動指導演習Ⅰ・Ⅱの授業内で実施した。健康運動実践指導者の実技試験指導については、特別講師として権藤 露氏（スタジオパラディソ；健康運動指導士）をお願いした。

本プログラムの成果として、令和5年度健康運動実践指導者認定試験には3年次生10名が受験し、10名全員が合格した（全体の合格率：61.7%）。第154回健康運動指導士認定試験には4年次生2名が受験し、2名とも合格した（全体の合格率：72.3%）。

## <実施日程>

令和5年11月27日～12月11日：健康運動実践指導者実技試験対策講座

令和5年9月14日～10月19日：健康運動指導士筆記試験対策講座

## 合格者レポート

### <健康運動科学科4年 内崎 鈴奈（令和5年度健康運動指導士 合格）>

本校の健康運動指導者対策プログラムを受講したことで、健康運動指導士の資格を取得することができました。本プログラムでは、テキストの内容ごとに専門領域の先生方から、必要な知識や単元のポイントを学びました。模擬試験では、自分がどこまで理解できているのか、どの単元が苦手なのかを把握することができ、試験本番に向けての対策をスムーズに行うことができました。担当の先生方にも質問がしやすく、本プログラムを受講する仲間同士で問題を出し合ったりするなど、理解を深めることができました。今後は、本プログラムで学んだことを活かし、多くの方の健康づくりをサポートできる運動指導者を目指していきます。



### <健康運動科学科3年 中村 郁斗（令和5年度健康運動実践指導者 合格）>

健康運動指導者試験対策プログラムを受講し、健康運動実践指導者の資格を取得することができました。筆記試験対策では各分野の頻出ポイントや実際に出題された問題について教えて頂きました。苦手分野の発見にもつながり、自身の勉強にも役立てることができました。実技試験対策では外部の先生や、昨年合格された先輩方にもご指導頂きました。一つ一つの動きの注意点について丁寧に教えていただいたほか、受験をする学生同士でも確認し合うこともあり、自分一人で練習しては気づかないような改善点を把握することができ、試験本番は落ち着いて、自信を持って実技を行えました。今後も運動指導者として成長していけるよう、勉強に励んでいきたいと思えます。



# 生涯スポーツ教育実践プログラム

**担当責任者 霜島 広樹**

生涯スポーツ教育実践プログラムにおいては、学外から講師を招聘し、講演会を実施する「特別講演の開催」や、学外イベント・プログラムへ学生を派遣するといった「生涯スポーツ教育プログラムへのスタッフとしての参画」といった計画を立てていた。特に、特別講演については、アビスパ福岡を始めとするプロスポーツクラブの担当者とのやりとりを進めていたが、スケジュールの都合等の理由により、来年度に持ち越すこととなった。特に、アビスパ福岡は今年度、ルヴァンカップにてクラブ史上初となるタイトルを獲得し、天皇杯でもクラブ史上最高成績となるベスト4進出を果たしており、福岡のプロスポーツクラブとして特筆すべき成果を残している。また、シャレン（社会連携）パートナーおよび「FUKUOKA TAKE ACTION」といった社会連携に関する興味深い事業の取り組みも実施していることから、来年度には上記に関連する内容を講演頂けるよう調整を図っていきたいと考えている。生涯スポーツ教育コースについては、コースの特色をより強く打ち出していくことが今後の課題として挙げられ、この点も踏まえて、来年度以降のプログラムを計画していきたい。

# キャリア教育プログラム

担当責任者 野口 安忠

今年度のステップアップセミナーは、受講生全員が同一教室による対面での受講形式とした。内容については、昨年度と同様、キャリアセンターから本学の就職・進路の状況をはじめ、株式会社リアセック社のPROGテストによる自己診断、様々な業種で勤務される方を講師に招聘して行う外部講話、大学スポーツ協会（UNIVAS）と株式会社マイナビの「UNIVAS デュアルキャリアプログラム」といった流れで実施した。外部講話では、例年、中学高校教諭の方に講師を依頼していたが、本学部は一般企業に就職を決める学生が多いため、九州を代表する企業の株式会社九電工、ミズノ株式会社、東野産婦人科の健康運動指導士に変更した。また、昨年度から再開したSPI（一般常識力テスト）も継続し、各授業の冒頭にミニSPIテストを実施することで、自身の現状把握および就職活動に向けた準備の機会とした。

本科目の目的は、次年度から就職活動をスタートする2年次生に、将来を見据えた学生生活のあり方を考えさせることにある。今年度も関係各位のご協力はもちろんのこと、外部講話の変更、SPIの継続など、より学部における就職進路の傾向を配慮した実践的な講義内容になったものと捉えている。この科目の学びを通じて、一人でも多くの学生が円滑に就職活動をスタートし、希望した道に進んでくれることを心から願っている。



## 講師一覧

- 第1回 (9月14日) :ガイダンス・一般常識カテスト
- 第2回 (9月21日) :本学の就職・進路支援の実際 (キャリアセンター)
- 第3回 (9月28日) :PROG コンピテンシーテスト(株式会社リアセック)
- 第4回 (10月5日) :阿部雅人 氏 (ミズノ株式会社)
- 第5回 (10月12日) :高島真織子 氏 (株式会社 九電工)
- 第6回 (10月19日) :盛田さつき 氏 (東野産婦人科)
- 第7回 (10月26日) :PROG コンピテンシーテスト フォローアップ(株式会社リアセック)
- 第8回 (11月2日) :UNIVAS デュアルキャリアプログラム(主体性)
- 第9回 (11月9日) :UNIVAS デュアルキャリアプログラム(セルフコントロール)
- 第10回 (11月16日) :UNIVAS デュアルキャリアプログラム(信頼関係)
- 第11回 (12月7日) :就職活動と業界企業研究について (キャリアセンター)
- 第12回 (12月14日) :現役学生による講義  
GH200301 島川智哉 氏 (広島県高校採用)  
GS200227 川上泰生 氏 (熊本県民テレビ)  
GS200116 二川大輝 氏 (日清紡マイクロデバイス)
- 第13回 (12月21日) :一般常識カテスト・意識調査アンケート



## 受講者レポート

### 第2回（9月21日）キャリアセンター

今日の講義を受けて、初めてこんなに詳しく進路のことについて話を聞くことが出来て今のうちから考えておくことが大事なのだと改めて思った。私も教員になりたいと思っていて企業などは私に関係ないと思って、興味を示していなかったが、実際教員になった時に生徒に進路指導ができるように、教員以外の職業にも自分のことと捉えて身に触れて行きたいと思った。（GS 女子）

### 第4回（10月5日）講師：阿部雅人 氏（ミズノ株式会社）

自分はミズノのイメージがグローバルな企業のイメージがあったので実際に働いている人の話を聞いて結構変わりました。商品だけでなく、社会に貢献するために佐川急便などの服のデザインや機能性に携わっていたりなど、多岐に渡って活躍していると思いました。これからは企業理念についても自分の考えとマッチしているかを深く考えることが大切になって行くと思いました。（GH 男子）

### 第5回（10月12日）講師：高島真緒子 氏（株式会社 九電工）

今回の講義で大切だと感じたことは、企業にとって必要だと感じさせることができるような能力を身に付けることである。問題解決能力、コミュニケーション力、主体性・積極性が大切であるとあったように、部活動で培った経験や人間性をどのように活かせるかというのが鍵になると感じた。やはり、スポーツをやってきたからこそその利点は就職活動でも大いに役立つと思うので、自分の強み・弱みを理解していきたい。（GS 男子）

### 第6回（10月19日）講師：盛田さつき 氏（東野産婦人科）

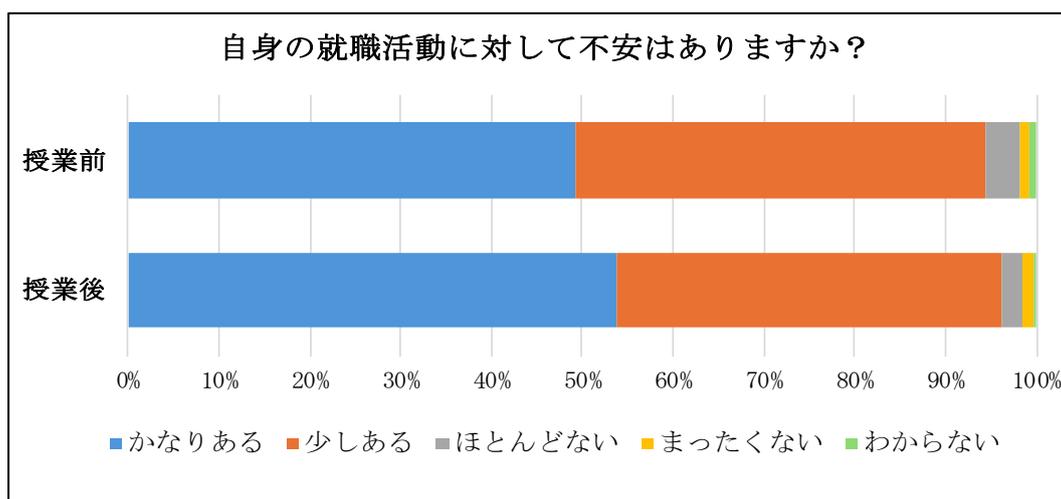
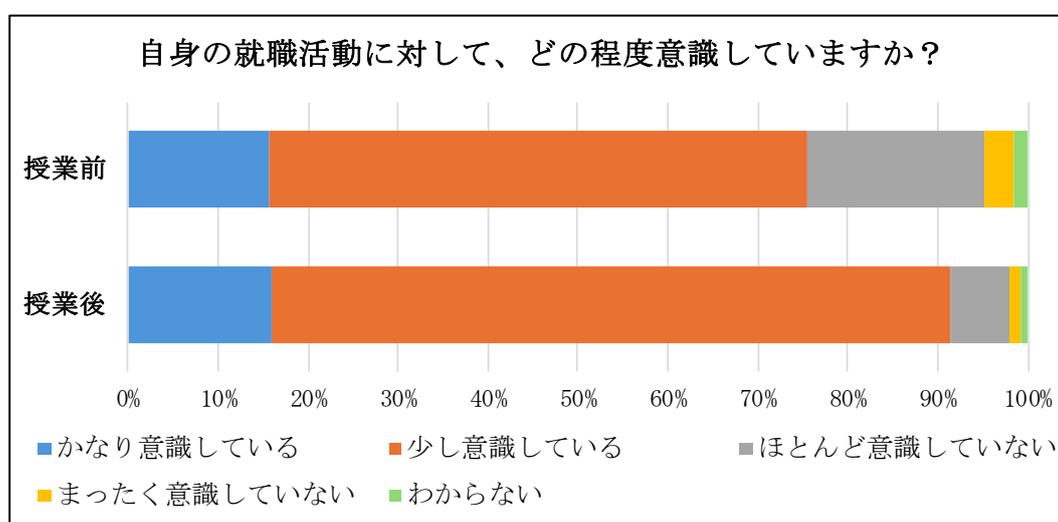
健康運動指導士の方が産婦人科で働いているということは聞いたことがあった。妊婦さんの運動をするにあたって今の大学で学ぶこと以外に専門的な知識もたくさん必要であるので違う学校へ行ってもう一度そのことについて学ばなければならないのかなと思っていたが、実際に学びながら働いていると聞いて驚いた。学生時代の積極的な行動は自分の将来にもつながるので大切だなと思った。もう一度今自分にもっとできることがないか探してみたいと思う。（GH 女子）

### 第8～10回（11月2日～11月16日）講師：UNIVAS デュアルキャリアプログラム

自ら考え、決断し、行動するということが主体性であるということを知り、自主性との違いを学ぶことが出来た。守、破、離という新たな知識を得ることが出来たので今後の生活の中で今まで行われてきたものを大切にしながら多くのプラスになるものを取り入れ、自分の考えや他人からの意見などを組み合わせながらより良い行動をできるようにしていきたいと感じた。（GS 男子）

### 【授業前後アンケート集計】

就職活動に対する学生の意識調査として、授業前後で同様のアンケートを実施した。以下の図は各質問に対する学生の回答の割合を示している。授業前に比べて、授業後では「自身の就職活動に対して、どの程度意識していますか？」という質問に対して、“少し意識している”と回答している学生の割合が増加した。また、「自身の就職活動に対して不安はありますか？」という質問には「かなりある」と回答した学生の割合が増加している。この傾向は、授業を通じて学生自身が就職活動を意識し、将来の自分に対して考える機会となっているのではないかと感じる。



# 令和5年度 成果一覧

## 団体の部

### <ソフトテニス部>

第43回全日本大学ソフトテニス王座決定戦 男子団体戦	第2位
第43回全日本大学ソフトテニス王座決定戦 女子団体戦	第2位

### <なぎなた部>

第62回全日本学生なぎなた選手権大会 女子団体試合競技	第3位
-----------------------------	-----

### <ソフトボール部>

第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会	第3位
------------------------	-----

### <陸上競技部>

第92回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子4×100mリレー	第2位
第92回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子4×400mリレー	第2位
第107回日本陸上競技選手権大会 リレー競技 女子4×100mリレー	第2位
第107回日本陸上競技選手権大会 リレー競技 女子4×400mリレー	第1位

### <サッカー部>

第7回全日本大学サッカー新人戦	第2位
-----------------	-----

### <バレーボール部>

第70回全日本バレーボール大学女子選手権大会	第3位
------------------------	-----

## 個人の部

### 国際試合

#### <サッカー部>

坂井 悠飛(GS1)	U19 全日本大学選抜 第45回アンジェロ・ドッセーナ国際ユース大会	第1位
中山 桂吾(GS2)	U20 全日本大学選抜 アジア大学サッカートーナメント	第1位
重見 柁斗(GS4)	U22 日本代表 第19回アジア競技大会	第2位

#### <陸上競技部>

アツオピン ジェyson(GS3)	アジア投擲選手権大会	男子砲丸投	第2位
-------------------	------------	-------	-----

#### <ハンドボール部>

細田 啓輔(GS3)	第24回男子ジュニア世界選手権	第19位
------------	-----------------	------

## 国内試合

### <陸上競技部>

城戸 優来(GS4)	第 92 回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子 100m	第 3 位
高野 七海(GS4)	第 20 回田島直人記念陸上競技大会	女子 400mH	第 3 位
森山 静穂(GS 3)	2023 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子 200m	第 3 位
		女子 400m	第 2 位
	第 20 回田島直人記念陸上競技大会	女子 200m	第 2 位
	第 92 回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子 200m	第 1 位
		女子 400m	第 1 位
宮原 なな佳(GS1)	第 92 回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子 10000m	第 2 位
田島 美春(GS2)	第 36 回南部忠平記念陸上競技大会	女子 200m	第 3 位
伊藤 彩香(GS2)	2023 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子 100mH	第 1 位
花谷 そら(GS4)	2023 日本学生陸上競技個人選手権大会	男子 3000m sc	第 3 位
	第 92 回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子 3000m障害	第 3 位
有村 拓巳(GS4)	布勢スプリント 2023	男子 走高跳	第 3 位
菅野 翔太(GS2)	第 39 回 U20 日本陸上競技選手権大会	男子 三段跳	第 3 位
中尾 優花(GS2)	第 36 回南部忠平記念陸上競技大会	女子 走幅跳	第 1 位
中村 和花(GS1)	第 39 回 U20 日本陸上競技選手権大会	女子 三段跳	第 3 位
日夏 涼香(GS3)	2023 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子 砲丸投	第 3 位
東海林 慎也(GS1)	第 39 回 U20 日本陸上競技選手権大会	男子 砲丸投	第 3 位
佐野 陽菜(GS1)	第 39 回 U20 日本陸上競技選手権大会	女子 ハンマー投	第 3 位
アツオピン ジェyson (GS3)	第 36 回南部忠平記念陸上競技大会	男子 砲丸投	第 1 位
	第 92 回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子 砲丸投	第 1 位

### <モーターボート・水上スキー部>

鈴木 太智(GS4)	2023 年全日本学生水上スキー選手権大会	第 1 戦 男子スラローム	第 1 位
	チャンピオンシリーズ	第 2 戦 男子スラローム	第 1 位
	全日本水上スキー選手権大会	U21 男子スラローム	第 1 位
長友 亮(GS3)	2023 年全日本学生水上スキー選手権大会	第 1 戦 男子スラローム	第 2 位
	チャンピオンシリーズ	男子トリック	第 2 位
		第 2 戦 男子個人総合	第 2 位

<柔道部>

大野 萌亜(GS2)	2023年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	女子 57 kg級	第3位
中嶋 涼葉(GS3)	2023年度全日本学生柔道体重別選手権大会	女子 52 kg級	第3位
大浦 圭弥(GS4)	2023年度全日本学生柔道形競技大会 (第2回)	固の形 (取)	第3位
名村 慶太(GS4)	2023年度全日本学生柔道形競技大会 (第2回)	固の形 (受)	第3位

<バレーボール部>

川添 美優(GS4)	全日本バレーボール大学女子選手権大会	ベストスコアラー賞	第3位
------------	--------------------	-----------	-----

## 教員採用試験

<小学校>

酒井綾・福岡市(GS4)

<中学校>

音羽悠基・北九州市(GS4) 能見若奈・福岡市(GS4)

田中奈津美・福岡県(GS4) 古賀遥香・福岡県(GS4)

<高等学校>

島川智哉・広島県(GH4) 糀屋齋・福岡県(GS4)

## 健康運動指導士及び実践受講者認定試験

<健康運動指導士>

・154回認定試験合格者

内崎鈴奈(GH4) 桑原ほたる(GH4)

<健康運動実践指導者>

田代 梨紗(GH3) 稲光 美紅(GH3) 西村 ありさ(GH3) 西山 大翔(GH3) 金光 凱夢(GH3)

松木 悠人(GH3) 松山 文哉(GH3) 田中 香凜(GH3) 中村 郁斗(GH3) 向井 悠貴(GH3)

## JATI

行武唯華(GS4) 吉井希海(GS3)

令和5年度「福岡大学 学部教育充実予算」  
体育・スポーツのエキスパート育成プログラム事業報告書

---

発行 令和6年 4月  
編集 檜垣靖樹 乾真寛 吉田一也 道下竜馬  
野口安忠 霜島広樹 今村律子  
発行者 福岡大学スポーツ科学部  
福岡市城南区七隈8丁目19番1号  
092-871-6631 (代表)

---

<https://www.spo.fukuoka-u.ac.jp/>

